右之通、木村宗右衛門、角倉與一申之候、下り船賃之義、古來一人より十錢宛之内より、二錢宛取立候御定メニて御座候處、去々年より、一人十五錢被仰付候へども、上米ハ前之通二錢宛取立之由申候、然共外ニ而承候へバ、左樣之儀ニ而ハ無御座候、一人よりハ三十錢も五六十錢も、其餘も取候樣承候、兩人とも、疑敷申口ハ相聞不申候、同じ支配ニ候得共、淀船ハ支配一通リ之船ニ而御座候故ニ哉、過書之方を、贔屓候申口ニ相聞江申候、勿論右ハ兩人之申口、一通り迄ニ而御座候、承屆ハ不仕候、猶以船頭加子共ニも、相尋可申上候哉、奉伺候、以上、

五月　　諏訪肥後守篤頼
河野豐前守重通

（欄外）銘書、過書船、淀船之義申上候書付、諏訪肥後守、河野豐前守、寅七年享保三月廿日、近江守殿御渡被成、廿二日、此本紙返上ト、朱書有之、按、上荷船長五尺間にて壹間八寸、梁間壹間壹尺、右大坂諸川船帳ニ見ユ、

〔京都御役所向大概覺書七〕同所津大湖水船之事

正德四午年分

御運上銀九貫四百六拾六匁五分

但舟大小ニより、御運上銀高下有之、

一御料私領船數貳千百六拾六艘

但百艘舟之儀、此船數之内ニ而大津堅田ニ居住いたし候、

外井伊掃部頭領内之舟者、前々より支配之外ニ付、燒印指除候故、舟數不相知候由、

内

丸船千三拾七艘

此譯

五艘　　三百五拾石より三百八拾五石積迄